WEEKLY REPORT

【例会場・事務局】
〒197-0832 東京都あきる野市上代継600
東京サマーランド スポーツクラブハウス
TEL.042-533-3992　FAX.042-533-3993

Rotary 第2580地区

持続可能な
インパクトを
生み出そう

東京秋川ロータリークラブ
2026-27年度 6号

2026年8月20日
第2454回例会

出席報告	会員	出席	欠席	免除	出席率
	40	27	13	0	67.5%

本日のテーマ

例会　卓話

あきる野市長 臼井 建 様

次回以降のプログラム

8月27日(木)　鮎の塩焼きを食べる会
9月　3日(木)　取りやめ
9月10日(木)　全員協議会

第2453回の出席率訂正 会員40名　出席28名　メークアップ7名　欠席5名　免除0名　訂正出席率 87.5%

会長方針　思いやりを持って社会貢献し、友情を深めよう

本日のお客様

あきる野市長 臼井 建 様

臼井市長　町田会長

会長報告　町田 勝俊 会長

会長より、本日は特段の報告事項はない旨の報告。

幹事報告　島田 幸成 副幹事

幹事が入院中のため、代理として島田副幹事が報告を実施。

①地区ローターアクト関係
地区ローターアクトから、例会での活動紹介・交流等について、オンラインを含めた形でローターアクトを招いてほしいとの依頼があった。プログラム委員長等と確認のうえ、検討する。

②青少年関係行事
9月26日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される青少年関係の合同会議・報告会について案内。締切は9月1日(火)。参加希望者は担当幹事まで連絡する。

③米山関係
2027年度の米山奨学生募集について案内。応募期限は10月15日(木)。

――今週の感謝(柳幹事より)――

「元気な朝を迎えられることは当たり前ではない。仕事をすること、仲間と顔を合わせること、何気ない日常を過ごせることに感謝したい」との内容を紹介。
家族、関係者、ロータリーの仲間への感謝を述べ、治療をしっかり行い、元気な姿で例会に戻るとの言葉で締めくくった。

WEEKLY REPORT

2026-27年度 6号
第2454回例会

理事会報告

前回の第4回理事会について、会長より報告。

○多摩グループ合同ポリオデー
次回理事会で参加を確認する予定。担当は社会奉仕委員会の佐藤委員長、麻沼委員を中心に進める。

○事務局の契約・雇用形態
現状の曖昧な部分を見直し、業務内容や責任範囲を明確にする方向で調整する。

○事務局への対応
お礼金等について、全員協議会での承認内容を踏まえ、一時金としての取り扱いや税務面も考慮しながら、今後さらに調整する。

○将来の基金・報酬基準
退職金や時間外対応等に備え、積立金を検討する方向で理事会としてまとめた。

○名誉会員の依頼
あきる野市長、日の出町長、檜原村長等に名誉会員への就任を依頼する方向で承認した。

○会員の退会届
本人の意向を尊重し、理事会承認事項として進めることを確認。

○理事会情報の共有方法
重要事項の正式決定は理事会で行う。事前の情報共有や意見集約にはLINEを活用する。継続案件については一覧化し、順次調整していく。

○今後の運営方針
事務局体制や将来の運営ルールを整備するとともに、地域との連携およびクラブ運営の効率化を進める。

委員会報告

○野球同好会
9月2日（水）・3日（木）に甲子園大会へ参加予定。
試合は9月3日（木）の第3試合、11時20分開始予定。総勢16名で参加する。
可能な方には甲子園球場での応援をお願いした。

―SAA委員会―　ニコニコ 発表

合計金額 17,000円

・町田 勝俊 会長　　臼井市長卓話宜しくお願いします
・坂谷 充孝 君　　本人誕生祝を頂いて
・松村 博文 君　　臼井市長卓話楽しみしています
・佐藤　慶 君　　早退します

また、本日の弁当について、地域の店舗（さっちゃん酒場）に準備していただいた旨の紹介があり、機会があれば店舗も利用してほしいとの案内があった。

── 卓 話 ──　あきる野市長　臼井 建 様

「あきる野市の現状と未来 ―AI・IT時代のまちづくり―」

プログラム委員会より、今年度は先輩会員の知見や職業奉仕委員会等とも協力しながら、AI・IT技術の急速な進化を踏まえ、現状と未来の可能性を学ぶ機会を設けているとの説明があった。
今回は、就任から約2週間の臼井市長を迎え、あきる野市のIT活用の現状と今後の取り組みについて講話をいただいた。

○市長就任について
臼井市長は、約2週間前にあきる野市長に就任したことを報告。
これまで9年間、市議会議員を務めてきたが、市長就任後は毎朝市役所へ出勤し、市役所業務や現場対応など、多忙な日々を送っていると説明。今回、ロータリークラブから卓話の機会をいただいたことへの感謝を述べた。

○あきる野市の人口と現状
現在の人口
あきる野市の人口は、7月1日現在で約78,500人。市長は、現在の人口規模を今後いかに維持していくかが重要な課題であると説明した。
人口の推移
1970年頃、秋川市・五日市町を合わせた人口は約45,000人だった。その後、人口は右肩上がりで増加し、1995年頃の合併時には約75,000人となった。合併後も人口増加が続いたが、現在は人口減少局面に入っている。
総合計画と人口予測
第一次総合計画では、将来的に人口11万人程度を想定していた。かし、実際の人口は計画を大きく下回り、現在は約78,500人となっている。これはあきる野市だけの問題ではなく、日本全体が人口減少時代に入ったことの表れでもあると説明。国の推計では、2030年のあきる野市人口は約75,800人になると見込まれている。

○人口減少への対応
現在の第二次総合計画では、何も対策を講じなければ人口がさらに減少する一方、移住・定住や子育て支援などを積極的に進めることで、約78,300人規模を維持することを目標としている。子ども、生産年齢人口、高齢者の割合にも変化が見られる。
•子どもの割合：約14% → 約10%
•生産年齢人口：約66% → 約57%
•高 齢 者 人 口 ：約19% → 約32%
今後は、人口そのものだけでなく、若年層や生産年齢人口の減少をできる限り抑えることが重要と説明した。

○地域経済・事業承継への取り組み
人口を維持し、市の活力を保つためには、移住・定住だけでなく、働く場の確保と地域経済の活性化が必要。特に、空き店舗の増加や商工業の担い手不足、事業承継などが課題となっている。あきる野市では、創業・就労・事業承継の総合相談拠点として「ビスタ」を設置。商工会や地域金融機関と連携し、事業承継・創業に関するセミナーや相談を実施している。相談は継続的なものが多く、令和7年度の相談者数は延べ111人、相談件数は149件に上るとの説明があった。

○自治体DX・AI・ITの活用
人口減少により労働力が不足する中、行政においても限られた職員で増大・複雑化する市民ニーズに対応する必要がある。
そのため、あきる野市でもAIやITを積極的に活用していく方針。
国のDX推進　国では自治体DX推進計画を策定し、
•行政システムの標準化　•行政手続きのオンライン化　•フロントヤード改革　•AI・RPAの活用　•マイナンバーカードの普及
などを進めている。
フロントヤード改革については、「書かない・持たせない・待たせない」窓口を目指し、市役所へ出向かなくても手続きができる行政サービスを目指すものと説明した。

○あきる野市のDXへの取り組み
あきる野市では、国の自治体DX推進計画以前から、
•ペーパーレス化　•押印廃止　•AI・RPAの検討　•テレワーク環境の整備　などに取り組んできた。
令和4年3月の総合計画にDX推進を明記し、令和5年3月にはDXの基本方針を策定。
基本方針では、次の4つの方向性を掲げている。
1.市民サービスの向上　2.行政事務のクオリティ向上　3.全組織・全職員一体でのDX推進　4.情報セキュリティ対策の推進

○生成AI・RPA・OCRの活用
あきる野市では、AIを活用した会議録作成支援システムや言語翻訳機などを導入。さらに、業務プロセスそのものを見直すBPR（業務改革）を行ったうえで、AI・RPA等を活用するスマート自治体への転換を進めている。
具体的には、紙の申請書 → OCR・AIでデータ化 → RPAでシステム入力を自動化　という流れを想定し、入力作業の時間削減を図る。
これらは単なるデジタル化ではなく、行政の人手不足を補い、すべての住民に公平・安全・継続的にサービスを届けることを目的としている。
一方、民間企業においてはAI・ITを「経営の武器」として活用することが重要であり、行政と民間では目的に違いがあるものの、業務効率化や人手不足への対応という点では共通すると述べた。

○臼井市長が目指す「あきる野市の将来像」
臼井市長が掲げる将来像は、「緑と産業を生かした田園都市」である。
あきる野市の魅力である豊かな自然環境を守り、観光などにも活用する一方、農業・商工業などの産業を活性化。
さらに、交通の利便性を含め、住民が安全・安心・快適に暮らせるまちを目指す。

○まちづくりを支える「3つの力」
将来像を実現するため、次の3つの力を強化する考えを示した。
①地域・市民の力――市民が主体となって地域を支える力。
②産業・経済の力――農業、商工業など地域経済を活性化する力。
③行政・財政の力――地域や産業を支える行政機能と健全な財政。

○教育・子育て政策
人口減少対策として、子育て政策を重視。保育所等の給食費について、現在の無償化制度をさらに拡充し、段階的な無償化を目指す考えを示した。また、中学校の部活動についても、子どもたちのニーズを踏まえた環境づくりを進めたいと説明。ダンスなど、現在の子どもたちが関心を持つ活動についても、外部指導員などを活用しながら選択肢を広げる考えを示した。さらに、
•「市長と話そう子ども会議」　•主権者教育　•市役所の仕事を知る機会
などを通じて、子どもたちが地域や行政に関心を持つきっかけを作りたいとした。

○若者・高齢者・障害者への支援
若者については、若者会議などを通じて意見を聞き、施策へ反映していく。また、若者の居場所づくりや地元で働ける環境づくりについても検討する。
高齢者・障害者については、•外出・移動手段の確保 •健康づくり •介護予防 •障害者スポーツ •就労支援　などを進める考えを示した。

○防災対策
防災対策では、個別避難計画の策定を重視。一人暮らしの高齢者など、自力で避難することが難しい方について、誰が、どのように避難を支援するのかを事前に明確にする。対象者が多いため、緊急性の高い方から段階的に策定を進める考え。また、ペットとの同行避難についても取り組みたいとした。

○文化・スポーツ・音楽によるまちづくり
あきる野市は郷土芸能が盛んな地域であり、地域の伝統文化を子どもたちや市民にもっと知ってもらう取り組みを進めたいと説明。
また、•スポーツ •音楽 •郷土芸能　などを活用し、市民が楽しめる「あきる野らしい」まちづくりを進める考えを示した。

○産業・観光・食のまちづくり
産業・経済の活性化については、ファーマーズセンターのあり方を検討。現在の「買う」だけではなく、「食べる・買う・体験する」ことができる施設への発展を目指す。また、あきる野に行けば特色ある食を楽しめるという「食のまち」としての戦略を作り、観光にもつなげたいと説明。商工会との連携を強化し、農林商工業など地域産業の振興を図る。駅前の活性化や近隣自治体との連携による観光振興についても取り組む考えを示した。

○秋川高校跡地の活用
秋川高校跡地については、前任の中嶋市長が整備の道筋をつけたことを評価。今後は企業誘致を進め、
•市内の雇用創出　•財政基盤の強化　•周辺地域への経済波及　につなげたいとした。
また、メタセコイア並木については保全する方針を示し、東京都とも調整しながら管理方法を検討していく。

○都市基盤整備
圏央道へのアクセス道路など、整備が停滞している箇所について事業を進める。また、人口減少時代を見据えた立地適正化計画についても検討を開始する考えを示した。

○行政・財政改革
財政の健全化に向け、•企業誘致 •ふるさと納税の拡充 •移住・定住施策の拡充 •行政業務の見直し •AI・DXによる業務効率化　など、歳入・歳出の両面から取り組む。また、経験者採用については対象年齢を広げ、民間で培った経験や知識を行政で活用することも検討したいとした。公共施設の再編については、特に学校を地域の拠点として活用することを検討する。

○市民との対話
「声の大きい人の意見だけを聞くのではなく、声を上げられない人の意見をどう汲み取るかが重要」と説明。
タウンミーティングや学校訪問などを通じて市民との対話を重ね、地域に眠っている意見を市政に反映していく考えを示した。

○目指す「あきる野市」の姿
臼井市長は、最終的な目標として、「市民が未来へ希望を持てるまち」を目指すと表明。
10年、20年先だけでなく、50年、100年先にも、子どもや孫の世代が誇れる持続可能なまちをつくりたいと述べた。
市民とともに未来のあきる野市にワクワクできるまちづくりを進めていきたいとの決意を示し、講話を締めくくった。

○質疑応答
質問1：引田駅北口の活性化について――引田駅北口について、駐車場が多く、駅前が寂しいのではないかとの質問。
回答――以前は複合ビルや事務所、コンビニ等の建築計画があったが、資材価格の高騰や融資金利の上昇などにより、商業的な投資が進みにくい状況になっている。市としては、地権者に土地活用の計画を確認しながら、にぎわいのある駅前となるよう支援していきたいと回答。なお、地区計画上、駅前の1階部分に住宅を建設することはできないため、駅前が戸建て住宅ばかりになることはないと説明した。
質問2：路上喫煙・ポイ捨てについて――路上喫煙やタバコのポイ捨て、子どもの健康を守るための意識について質問。
回答――路上喫煙の禁止や受動喫煙防止には、環境・健康面から一定の意義があると認識。現在は、のぼり旗や看板などによってマナー向上を呼びかけている。一方、他自治体では「美しい街並み」などを目的とした条例の中に、路上喫煙やポイ捨て防止を盛り込む事例もある。
今後、他自治体の事例を研究し、あきる野市でもより積極的な取り組みを検討したいとの考えを示した。

次週行事の案内

坂谷親睦委員長より、次週木曜日に開催される「鮎の塩焼きを食べる会」について案内。
臼井市長も参加予定であり、多くの会員に参加を呼びかけた。
開始時刻は17時から。

編集後記 週報委員会 担当 沼田 哲史

臼井市長には多忙の中、あきる野市の現状、AI・ITを活用した行政改革、人口減少対策、子育て・教育、産業振興、防災、将来のまちづくりについて幅広い講話をいただきました。